



大崎市長 伊藤 康志

協働によるおおさきさきの飛翔

笑顔あふれる大崎

新年明けましておめでとう
うぐやます。

皆さまには、ご家族おそろいで、希望に満ちた新春を健やかに迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

早いもので、東日本大震災から、間もなく5年がたちます。しかし、わたしたちが、平成23年3月11日を忘れることは決してありません。

性化を図るため策定した「中心市街地復興まちづくり計画」に基づき、広域防災・活動拠点整備として、大崎広域消防本部・古川消防署建設事業を地元の理解を得ながら進めていきます。また、昨年9月の関東・東北豪雨災害を教訓に、河川を含めた雨水対策にも、積極的に取り組んでいきます。

協働のまちづくり

話し合う協働のまちづくり条例に基づき、市民の皆さま、地域、ボランティア、NPOなどの団体と話し合い、協働のまちづくりを進めていきます。市が委嘱する審議会の女性委員の割合をさらに高め、男女共同参画のまちづくりを進めていきます。

都市機能の充実

新図書館建設事業は、周辺道路の整備を行いながら、平成28年度中の完成を目指し工事に着手しています。市役所周辺地区整備は、事業計画を作成中であり、平成28年の事業認可取得に向けて調整を図っていきます。

大崎市震災復興計画において本年は、再生期から発展期として、社会基盤・都市機能などをさらに充実させ、地域の活力と価値を高め、持続的に発展していく期間と位置付けています。また、昨年9月の関東・東北豪雨災害により、被災された皆さまに対する支援もしっかりと行っていきます。そうした中、人口減少と地

緒絶川周辺地区の親水広場は、県の道路拡幅事業と歩道を合わせ進めていきます。七日町再開発事業は、商業・住居・公共・観光機能が一体的に連携する、にぎわい拠点形成に向けて、地区内の合意形成を図っていきます。

鹿島台駅周辺整備事業は、昨年11月に東西自由通路の開通式を行いました。これに付随する駅前広場の整備についても早期完成を目指します。古川地域の塚目駅のあり方については、整備方針を決定し、「公共交通網形成計画」に位置づけていきます。また、国道108号花洲山バイパス事業は、最大の難所と言われた、鳴子地区から鬼首地区を結ぶ区間が、昨年11月に開通しました。地域として待望の開通であり、今後の地域活性化や観光振興に結びつくものと期待しています。ネットワークと地方創生に必要不可欠な、インフラ整備をこれからも促進してまいります。

利便性向上にむけたインフラ整備

世界農業遺産認定への取り組みは、「大崎地域農業遺産推進協議会」が中心となり、平成28年秋に予定されている農林水産省が行う国内審査に向けて継続して進め、再チャレンジします。低米価やTPP対応で、不安が増幅する中、昨年秋季に期待の新品種「ささ結」が、市場デビューを果たしました。予想以上の反響で、県内外に宮城の「ささ結」ありと伝えられ、高い評価をいただいています。今後、「ささ結」を核として大崎米のPRと消費拡大に努めてまいります。

方々の衰退が、大きくクロースアップされています。地方創生に向けて本市では、人口減少施策、交流人口増加や地域活性化などに関する施策を推進することとしています。本年2月までに「おおさき地方創生総合戦略」を策定し、実施に向けてしっかりと取り組みます。本年は、大崎市誕生から10周年という節目を迎えますの

で、新時代への飛翔に向けて、協働、一体感の醸成、さらには本市を内外に強くアピールすることを目的に「大崎市誕生10周年記念事業」を行うこととしています。

大崎市誕生10周年と合わせ、震災復興と地方創生をテーマに、再生から発展に挑戦するまちづくりを力強く推進し、笑顔あふれる大崎を実現して

充実した子育て事業

松山子育て支援総合施設「あおぞら園」は、4月の開園に向けて、順調に建設が進んでいきます。また、古川地域に社会福祉法人が新設している2つの認可保育園と、鹿島台地域で定員増に伴い建て替えを行っている認可保育園ともに、4月の開園を目指し、建設が進められています。

活力あふれる産業振興

企業誘致による経済の活性化と雇用機会の創出を図るため、古川インターチェンジ近くに整備していた北原工業団地は、3月竣工の予定です。また、新たな工業団地の整備についても検討してまいります。鳴子温泉をはじめとする市内観光地の魅力発信のため、昨年「観光振興ビジョン」を策定しました。今後は、戦略会議において、行動指針に基づく具体的なアクションプランを策定し、実施に向け鋭意努力してまいります。

居住環境に配慮したまちづくり。快適な居住環境の確保のため、鳴子温泉上鳴子住宅と鹿島台鈴掛住宅などの建て替えに着手します。また、増加している空き家・空き建築物対策として、昨年条例を制定しました。今後は、移住支援センターでの利活用策も含めた総合的な取り組みを進めてまいります。

復興と災害への備え。災害緊急情報などの伝達手段として有効な、デジタル防災行政無線は、平成28年度中に施設整備を完了し、運用開始する予定です。防災拠点施設整備と地震被害の大きかった商店街の再活

復興と災害への備え

をはじめ、各界で活躍している人が多くいます。中でもスポーツ界では、古川地域出身の女子プロボクシングWBO世界バンタム級チャンピオンで、世界タイトル3階級制覇の藤岡奈穂子選手、大相撲では前人未到の35回目の優勝記録を達成した横綱白鵬関、プロ野球では、岩出山地域出身で東北楽天ゴールデンイーグルスの今野龍太投手、古川地域出身で中日ドラゴンズの佐藤優投手、松山地域出身で女子プロ野球東北レイアの只笠榛奈選手など、若い力が育っています。このような活躍をわたしたち大崎市民へのエールとして、共に、宝の都(くに)・大崎を創生していきましょう。

ことしの干支は「申(さる)」で、申は「去る」に通じることから、「魔を去る」と考えられ、神様の使いとされてきました。さらに「不幸が去る」、「困難が去る」という意味付けもあるようです。申(さる)にあやかり、多くの幸せが、市民皆さまに訪れますよう心から祈念申し上げます。新年のあいさついたします。

笑顔を集めて。本市には、「おおさき玉大使」